

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期累計期間において、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項は発生しておりません。また、第10期有価証券報告書（平成23年6月21日提出）に記載した「事業等のリスク」に重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の締結は行われておりません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

以下の記載における将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものです。

(1) 業績の状況

①経営成績に関する分析

（当期間の経営成績）

当第3四半期累計期間におけるわが国の経済は、被災した設備の修復需要による設備投資が増加基調にあり、個人消費も底堅く推移する一方、ユーロの混乱や円高の影響などから、依然として不透明な状況にあります。

こうした環境の下、当第3四半期累計期間の当社業績は、経常収益66,896百万円、経常利益23,721百万円、四半期純利益13,884百万円となりました。

A T M設置台数の増加に加え預貯金金融機関の件数伸長により総利用件数が着実に増加したため、増収増益となりました。また、ノンバンクの取引減少幅は当第3四半期累計期間も中間期に続き改善しております。

	前第3四半期累計期間 (百万円)	当第3四半期累計期間 (百万円)	増減率 (%)
経常収益	64,457	66,896	3.7
経常利益	22,059	23,721	7.5
四半期純利益	13,046	13,884	6.4

・ A T Mサービス

当第3四半期累計期間は、セブン&アイHLDGS.グループ内外のA T M設置推進等により、A T Mをご利用いただくお客さまの利便性向上に努めました。この結果、A T M1日1台当たり平均利用件数は114.8件（前年同期比0.1件増）、総利用件数は497百万件（同6.5%増）と推移しました。

なお、平成23年12月末現在のA T M設置台数は16,210台となり、提携金融機関数は新規提携等により、同年3月末比9社増加し576社（注）となりました。

（注）J Aバンク及びJ Fマリンバンクについては、業態としてそれぞれ1つとしております。

・ 金融サービス

平成23年12月末現在、個人のお客さまの口座数は948千口座（同年3月末比7.1%増）となりました。また、平成23年3月から開始した海外送金サービスは順調に立ち上がり、当第3四半期累計期間の海外送金件数は14千件を超えました。

②財政状態に関する分析

総資産は693,424百万円となりました。

このうちA T M運営のために必要な現金預け金が354,592百万円と過半を占めております。この他、主に為替決済、日本銀行当座貸越取引の担保として必要な有価証券残高が128,980百万円、提携金融機関との一時的な立替金であるA T M仮払金が130,073百万円となっております。

負債合計は、571,177百万円となりました。

このうち主なものは預金であり、その残高（譲渡性預金を除く）は362,401百万円となっております。なお、個人向け普通預金残高は124,172百万円、定期預金残高は109,062百万円となっております。

純資産合計は、122,246百万円となりました。このうち利益剰余金は61,018百万円となっております。

	前事業年度 (百万円) (A)	当第3四半期会計期間 (百万円) (B)	増減(百万円) (B) - (A)
総資産	600,061	693,424	93,362
負債	485,522	571,177	85,655
純資産	114,539	122,246	7,707

③国内業務部門収支

当第3四半期累計期間の資金運用収支は前第3四半期累計期間比121百万円増加し△1,193百万円、役員取引等収支は同1,819百万円増加し58,414百万円、その他業務収支は同9百万円増加し△2百万円となりました。

種類	期別	金額（百万円）
資金運用収支	前第3四半期累計期間	△1,314
	当第3四半期累計期間	△1,193
うち資金運用収益	前第3四半期累計期間	184
	当第3四半期累計期間	372
うち資金調達費用	前第3四半期累計期間	1,498
	当第3四半期累計期間	1,565
役員取引等収支	前第3四半期累計期間	56,594
	当第3四半期累計期間	58,414
うち役員取引等収益	前第3四半期累計期間	64,191
	当第3四半期累計期間	66,453
うち役員取引等費用	前第3四半期累計期間	7,596
	当第3四半期累計期間	8,039
その他業務収支	前第3四半期累計期間	△12
	当第3四半期累計期間	△2
うちその他業務収益	前第3四半期累計期間	—
	当第3四半期累計期間	—
うちその他業務費用	前第3四半期累計期間	12
	当第3四半期累計期間	2

(注) 国際業務部門の収支はありません。また、特定取引収支はありません。

④国内業務部門役務取引の状況

当第3四半期累計期間の役務取引等収益は、A T M関連業務63,620百万円及び為替業務427百万円等により合計で前第3四半期累計期間比2,262百万円増加し66,453百万円となりました。役務取引等費用は、支払為替手数料を含めて同442百万円増加し8,039百万円となりました。

種類	期別	金額（百万円）
役務取引等収益	前第3四半期累計期間	64,191
	当第3四半期累計期間	66,453
うち預金業務	前第3四半期累計期間	44
	当第3四半期累計期間	48
うち為替業務	前第3四半期累計期間	389
	当第3四半期累計期間	427
うちA T M関連業務	前第3四半期累計期間	61,846
	当第3四半期累計期間	63,620
役務取引等費用	前第3四半期累計期間	7,596
	当第3四半期累計期間	8,039
うち為替業務	前第3四半期累計期間	170
	当第3四半期累計期間	192
うちA T M関連業務	前第3四半期累計期間	7,385
	当第3四半期累計期間	7,779

(注) 国際業務部門の役務取引はありません。

⑤国内業務部門預金残高の状況

○ 預金の種類別残高（末残）

種類	期別	金額（百万円）
預金合計	前第3四半期会計期間	299,338
	当第3四半期会計期間	362,401
うち流動性預金	前第3四半期会計期間	197,989
	当第3四半期会計期間	213,349
うち定期性預金	前第3四半期会計期間	101,116
	当第3四半期会計期間	148,788
うちその他	前第3四半期会計期間	231
	当第3四半期会計期間	263
譲渡性預金	前第3四半期会計期間	35,690
	当第3四半期会計期間	45,690
総合計	前第3四半期会計期間	335,028
	当第3四半期会計期間	408,091

(注) 1. 国際業務部門の預金残高はありません。

2. 流動性預金＝普通預金

3. 定期性預金＝定期預金

⑥国内業務部門貸出金残高の状況

○ 業種別貸出状況（残高・構成比）

業種別	前第3四半期会計期間		当第3四半期会計期間	
	貸出金残高（百万円）	構成比（％）	貸出金残高（百万円）	構成比（％）
個人	428	100.00	1,458	100.00
法人	—	—	—	—
合計	428	100.00	1,458	100.00

（注）国際業務部門の貸出金残高はありません。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期累計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた問題はありません。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。

(4) 従業員数

当第3四半期累計期間において、当社の従業員数に著しい変更はありません。

(5) 主要な設備

当第3四半期累計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

また、前事業年度末において計画中であった重要な設備計画を、ATMの増産体制が整ったことにより、以下のように変更を行いました。

店舗名 その他	所在地	設備の内容	投資予定金額 (百万円)		資金調達 方法	着手年月	完了予定年月
			総額	既支払額			
ATM	東京都 千代田区他	ATM	7,690	3,026	自己資金	平成23年4月	平成24年3月